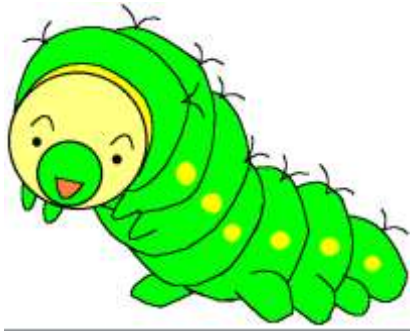
りょうぜん天蚕の会だより



【第 20 号】

発行責任者　りょうぜん天蚕の会　会長　菅野秀一（電話・FAX 024-586-3030）

【 当会の活動方針 】霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色（もえぎいろ）の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進する。また、会員一丸となって繭の生産、新商品開発に取り組むとともに、小学校等への観察用天蚕配布、県内外天蚕関係者との交流及び展示ＰＲ活動等を行う。

春暖の候、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成１７年２月に設立した「りょうぜん天蚕の会」はこの度２０年目を迎えました。これも偏に会員皆様の熱心な活動と設立以来伊達市、伊達市観光物産交流協会、大日本蚕糸会、野蚕学会、福島県関係機関等のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

令和５年度の繭の収穫は山付け総数5,000粒に対し約1,900個でした。昨年、飼育樹のエゾノキヌヤナギが改植後に強風で防草シートが煽られ幼苗木を痛めてしまったことや他のハウスでは例年にない猛暑の影響で枯れる樹木が多く見られました。また、クヌギのハウスには「アオイラガ」が大量に発生し天蚕の孵化に大きな障害となり、収穫量減少の大きな要因となりました。今後の圃場管理と害虫防除に対する大きな課題を残したところです。

当会は天蚕の採卵、飼育、繭加工、糸紬、機織まで一貫した作業活動行っていますが、ここ数年来コロナ禍のため各種行事を縮小してまいりましたが、今年度は「紬」や「経糸掛・綜絖」の研修、地域活動や市内小学校で天蚕繭工芸や養蚕に関する指導等、従来の活動を行いました。また「天蚕まつり」を２回開催し、多くの来客から当会の活動、展示製品等に大きな賞賛をいただきました。

今年は設立２０年を迎えたことから、会員一同意を新たにさらなる発展を目指し努力したいと思いますので、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

（会長　菅野秀一）

鮮やかな「萌葱(もえぎ)色」の天蚕繭

令和５年度総会開催

3月19日（日） 午後3時より霊山町中川集落センターにおいて会員23名が出席し第19回総会を開催した。菅野会長の挨拶に引き続き伊達市霊山総合支所の宍戸康良支所長、福島県伊達農業普及所の渡邊敏弘所長と藤田智博氏より祝辞をいただいた。議長に大友靖子さんを選出し４年度事業報告と一般会計報告並びに５年度事業計画、予算案が原案通り承認された。
事業計画には新型コロナが治まる傾向にあることから従来の活動と販路拡大の推進を確認した。

天蚕卵の選別と袋詰め

「天蚕の会」
卵、丁寧に袋詰め

伊達

伊達市の　長）は同市霊山町の中
りょうぜん　川集落センターで天蚕
天蚕の会（菅野秀一会　卵の袋詰め作業を行っ

天蚕の卵を丁寧に袋詰めする会員

た。
会員21人が参加し
1袋に10個ずつを丁
寧に入れた。袋はセン
ター近くの飼育ほ場の
樹木の枝に今春取り付
ける。天蚕はヤママユ
ガの幼虫で繭から糸が
取れ、草緑色の輝きが
あり、繊維のダイヤモ
ンドともいわれる。
作業後に開いた総会
では、2024（令和
6）年度の創立20周年
事業と予算などを協議
した。

↑ 令和５年４月６日　福島民報

3月19日（日） 総会に先立ち午後1時から20名参加し、天蚕卵5,000粒の袋詰め（約500袋）を行い山付け作業の準備を整えた。

↑メッシュの袋に卵を１０粒入れる

飼育樹の剪定作業

2月19日（日）、26日（日）飼育ハウスにおいて10名の会員が参加し剪定作業を行った。カミキリムシ虫等による食害が進んだエゾノキヌヤナギや樹勢の低下がある飼育樹を併せて伐根した。

クヌギの剪定

エゾノキヌヤナギの剪定

防虫剤散布・改植作業

3月15日(水)、4月5日(水)の両日に防虫剤散布、4月7日(金)に３名の会員で飼育樹（エゾノキヌヤナギ）の改植作業を行った。

防虫剤はカミキリムシによる根株やマイマイガによる樹葉の食害を防止するため重要である。また、剪定時に確保した苗木を抜木したハウス内に植樹した。

←防虫剤散布作業・改植作業

山付け、ネット張り作業

4月23日(日)、会員17名で山付け作業とハウスのネット張り作業を実施した。女性会員は一袋に10粒入った種を飼育樹(エゾノキヌヤナギ)に4,000粒を山付けした。

5月9日(火)、遅く発芽した２棟のナラ、クヌギのハウスに菅野会長、八島利幸、八島時男、島貫の４名で1,000粒の山付けを行った。また、防蟻処理のため粉末剤とクヌギ株にニカワの塗布を試験的に施行した。

「紬」研修を実施

6 月 27 日（火）中川集落センターで京都から下村ねん糸の下村輝氏を講師に招き会員 11 名が参加し紬研修を実施した。下村氏は令和３年 11 月にも来町されたが、他の団体との合同の研修会であったので、今回は当会のみの研修とした。

電動フライヤーによる紬繰糸も対面的な丁寧な指導を受け、充実した研修となった。

電動フライヤーによる紬繰糸に見入る会員

繰糸操作中の八島時男さんと石塚さん

繭の収穫作業

7月2日（日） 会員４名、7月9日（日） 会員７名が参加し、９時より「舘ハウス」で繭の収穫作業を行った。2日（日）は大阪大学の高橋賢臣さんと大原理彩子さんが作業に当たった。

飼育樹のエゾノキヌヤナギが改植後に強風で苗木を痛めてしまったことや例年にない猛暑の影響で枯れる樹木が要因となり、収穫数減少は想定されていたが、八島時男会員、鈴木会員、上田会員の繭を含め、総数で 1,900粒の収穫であった。

秋季飼育ハウスの整備

11月15日（水）９時から舘ハウスにおいて会員４名が参加し、飼育樹の長伸枝の剪定と雑草処理、枯樹処理、ネット外し作業を実施した。

特に6号ハウスにおいて飼育樹エゾノキヌヤナギの枯木の状況が著しいため、防草シートまで全部除去し原因を調べた。

結果は下記のとおり。

枯れたエゾノキヌヤナギを株毎引抜くと地上（シートの上）は5～7cmに太っているが地中（シートの下）は3cm程度と極細であった。

原因は、シートの穴が細く、強く締め付けられ、太れず、樹枝に水分等が行き届かぬと思われる状態が確認された。又、シートの穴3cm程度は手の力では広げられないほど相当に強く、幼木を挿し木する際はカッターで 5～10cmをカットするなどの処置が必要と思われた。

「天蚕まつり」を開催

9月30日(土)～10月1日(日)に伊達市梁川町の「まちの駅やながわ」、11月11日(土)～12日(日)は福島市飯坂町の「旧堀切邸」で開催した。 令和元年以来３年ぶりの開催で「まちの駅やながわ」「旧堀切邸」は共に初めての会場であったが多くの来客があった。やながわ会場には伊達市長の須田博行様ご夫妻も来場され、来客と一緒にリース作りをされた。堀切会場は秋の行楽シーズンと重なり団体客が来場し大賑わいであった。中には長野県で天蚕を飼育しているご夫婦も来られて、偶然にも福島で天蚕関係者と話できたことを非常に喜んでおられた。新聞のイベント記事や電車内でのPR看板を見て来場した方が多くおり、今後の会場設定に一考できた。

福　島

■天蚕まつり　りょうぜん天蚕の会（伊達市）が11、12の両日、市内飯坂町の旧堀切邸で開く。ショールやストラップなど天蚕商品の展示即売の他、コサージュやリース作りが有料で体験できる。午前９時から午後５時まで。問い合わせは事務局　電話024(586)1205へ。菅野秀一会長と事務局の八島利幸さんが来場を呼びかけている＝写真＝。

↑令和5年11月5日　福島民報

↑まちの駅やながわ　　↓旧堀切邸

母蛾検査を実施

11月25日(土) 9時から中川集落センターにおいて会員13名で母蛾検査を実施した。伝染性病原菌の有無を顕微鏡で検査するものである。今年の検体数は17体(昨年 35)と少数であったが疑わしい検体は皆無であった。

検査終了後に鈴木静子さんから「私の天蚕飼育法」と題してお話いただき、三田村さんからは「母蛾検査の重要性について」「害虫と天敵」、また、大阪大学の吉田裕介さんから「天蚕の研究」「福島キャンパス構想」の講話をいただいた。

掛田小学校で「繭工芸」・「糸づくり」指導

9 月 21 日(木)掛田小学校で菅野会長、八島事務局長、大友靖子会員の３名で「繭工芸」の指導を行った。また、12 月 7 日(木)は会長、事務局長、渡邊美樹子会員の３名で「糸づくり」の指導を行った。小学校３年生の総合学習の一環として『養蚕』の講座を当会で担当している。

蚕の変態（卵⇒幼虫⇒蛹⇒成虫）を学び、「繭工芸品作り」「繭から糸にする」「紬」「真綿」の一連の行程を見聞、体験できたことは非常に喜ばしい。

「繭工芸」では繭の堅さにおどろき、ハサミでカットするのに四苦八苦。そして出てきたサナギの姿にキャーキャー！の大騒ぎ。思い思いの作品が出来あがった。（指導：大友靖子会員）

「糸づくり」は繭から糸にする体験である。予め煮解きしていた繭からサナギを取り出し、二人で苦労しながら B5 版程度に引き延ばす事は大変であった。また、真綿から糸を紡いで糸巻きするのも難しいが児童は皆んな真剣に取り組んだ。（指導：渡邊美樹子会員）

「霊山町文化祭」に天蚕製品協賛展示

10月28日(土)～29日(日)霊山町体育館で恒例の霊山町文化祭が開かれ当会の作品の展示を行った。会長、八島事務局長ほか５名（時男、恭子、川辺、丹治、大友）の会員が説明に当たった。

新型コロナもようやく治まりをみせ、出展の団体や来場者も従来通りに賑わった。当会の展示ブースの「緑の繭」と製品には大勢の方々が見入っていた。

県内外の団体が当会活動視察に来訪

5月31日(水) **喜多方市松山公民館一行 18名**が中川集落センターにおいてコサージュ、リース作りをした。会津地方でも養蚕が盛んだったこともあり遠き歴史を語り合えた。　(会長、事務局長、八島恭子、川辺、大友、渡邊(美)会員が対応した)

10月30日(月)**喜多方市山都赤十字奉仕団一行 8名**が八島事務局長宅を訪れ、天蚕の会と製品作成の活動を見聞された。11月1日(水)に来訪する山都公民館一行と共通するメンバーもおり、班分けしての来訪となったもの。萌葱色の繭に初めて触れる方が多く、天蚕布に興味を示されていた。(会長、事務局長、八島恭子会員が対応した)

11月16日(木)**東京から稲田様一行 8名**が八島事務局長宅を訪れ、天蚕の会と製品作成の活動を見聞された。農林水産省と環境省のOBで、原発避難地域の除染と復興事業を担当され、菅野会長と職をともにした方々である。復興進捗視察の帰路立ち寄られ歓談した。後日、「ふるさと納税」で天蚕製品も購入された。(会長、事務局長、八島恭子会員が対応した)【写真無】

11月1日(水) **喜多方市山都公民館一行 7名**が中川集落センターにおいてコサージュ、リース作りをした。

また、泉原養蚕用具整理室を訪問し「国重要有形民俗文化財」を見聞された。

(会長、事務局長、八島恭子、川辺、大友会員が対応した)

12月13日(水) **仙台市の AITTA社(ｱｲｯﾀ) ２名**が八島事務局長宅を訪れた。 当社は**絹・綿・麻・ウール**など、人々が生み出し、伝え守ってきた和服という日本の宝に新しい息を吹き込み、洋服等に甦らせるブランドを事業とする。 天蚕布を見て「日本の風土が生み出した貴重な手仕事である」として感嘆していた。(会長、事務局長、八島恭子、松浦、柳沼、石塚会員が対応した)

新会員紹介

村川 友彦 さん
福島市
福島県史学会会長

東崎 昭弘 さん
大阪府門真市
大阪大学元特任教授
信州大学名誉教授

高橋 賢臣 さん
大阪府豊中市
大阪大学准教授

吉田 裕介 さん
大阪府茨木市
大阪大学助教

大原 理彩子 さん
大阪府吹田市
大阪大学大学院生

小野 光代 さん
福島市
信夫和紙工房

伊達市観光物産交流協会 を紹介します

観光物産交流協会は市役所梁川総合支所3階にあり伊達市の特産品紹介や観光案内等を行っています。 観光案内所は市役所「梁川総合支所」と「道の駅 伊達の郷 りょうぜん」にあります。「天蚕の会」も協会の一会員で 「天蚕まつり」開催のポスターは佐藤聡子総務課長のデザインでレイアウトからプリント、阿武急車内掲示依頼まで多方面で協力いただいています。

萩原孝之専務理事兼事務局長と佐藤聡子総務課長には多忙なところ突然の訪問取材にもかかわらず快く応えていただきました。

伊達市泉原（いずみはら）養蚕用具整理室 を紹介します

泉原養蚕用具整理室は伊達市保原歴史文化資料館の分室で霊山町の旧泉原小学校にあります。幕末から昭和中期まで伊達地方を形作ってきた大切な遺産約 5,000 点以上に及ぶ寄贈された養蚕用具が収蔵されています。平成 31 年 3 月 28 日長く伊達市の基幹産業であった養蚕用具 1,344 点が「国重要有形民俗文化財」の指定を受けました。

学芸補助員の柴田明美さん(左)、技術職の新堀朋子さん(右)と渡邊美樹子さん(中:天蚕の会会員)の 3 名は現在民具整理・保存作業に日々奮闘しています。

「石造の猫像（ねこぞう）」って知ってますか？

養蚕が盛んだったころ、蚕の大敵ネズミを駆除してくれる「猫」を大切にし「猫神様」として祀ったものです。東北地方には猫神様が145基ありますが、その内の「石造の猫像」が伊達市内に6基祀られています。

【霊山町大石字家ノ入の「二十三夜堂」に1基、
梁川町山舟生に4基、 月舘町布川に1基】
（出典 丸森町文化財友の会 「丸森町猫碑めぐり」
平成29年3月30日発行 … 高野佐平さん所蔵より）

10 月 28 日(土)～29 日(日)に開催された霊山町文化祭に霊山町下小国の高野佐平さんのブースに自分で踏査撮影した「猫の供養碑」の写真、「猫神様」に関する書図が多数展示されました。

会員の活動スナップ

飼育樹エゾノキヌヤナギの剪定作業

ハウスのネット掛け作業

総会で大阪大より研究成果報告

山付け、ネット掛け作業で一休み

クヌギの防虫作業の島貫さん、八島さん

県伊達農業普及所 藤田氏の指導

喜多方市松山公民館一行に指導する川辺さん

繭収穫後　選別作業の時男さん、利幸さん

天蚕繭の糸紬作業　柳沼さん

機織り作業　大原さん

糸紬講習での**天女**の皆さん

天蚕まつり　まちの駅やながわ

天蚕の繰糸作業と指導する八島さん

喜多方市山都町公民館一行　泉原に案内

霊山町文化祭で展示品説明の恭子さん

端糸出し作業の石塚さん

一年間の指導に三年生一同から感謝の記念品

福島県の蚕糸業再興に向けて

大阪大学人間科学研究科　大原理彩子
明治大学理工学部　高橋　亘
大阪大学核物理センター　吉田　裕介
大阪大学人間科学研究科　髙橋　賢臣
大阪大学核物理センター　東崎　昭弘
明治大学理工学部　本多　貴之
福島県農業総合センター浜地域研究所　三田村敏正
大阪大学人間科学研究科　稲場　圭信

1．背景

2011年3月、福島第一原子力発電所事故により、周辺地域は放射性物質によって広域に汚染された。土壌が汚染されたという事実は農業県である福島県にとっては非常に大きなダメージで、県内の農業産出額は2011年に急激に落ち込み、現在でも風評被害などが原因で事故以前の水準には戻っていない。

我々は「福島復興の原動力の一つとして蚕糸業を再興させたい」という目標を掲げ様々な研究を行っている。「復興」と一口に言っても、インフラの復旧や雇用の創出といった、数字で評価できるものもあれば、被災者一人一人の復興に対する思いなどの数字で測ることが出来ない側面もある。ここでは地域の伝統や人々の思いに重点を置き、福島の伝統産業である蚕糸業の活用について検討したことを報告する。

2．福島県復興へ向けた蚕糸業活用の可能性と課題

復興庁が、避難先から富岡町、浪江町に帰還した町民に対して行った調査[1]では、帰還を決めた理由として「気持ちが安らぐこと」を挙げた人が両自治体共に過半数を占めており、地元への愛着が帰還の決め手となっていることが窺える。そのことから、福島ならではの魅力を生かし、地元に愛される産業を活用することが有効と考え蚕糸業に着目した。福島県において蚕糸業を活用する強みは以下の4点である。

・江戸期から養蚕で栄えた土地であるため、桑の栽培に適した土壌、養蚕経験者がまだ残っている。
・シルクそのものの美しさに加え、環境にも健康にも優しい製品であることはSDGsの理念に合致しており

国内のみならず世界で人気を得られると考えられる。
・放射線に関する風評被害は未だ払拭されていないが、ショールやアクセサリーなど口に入らない物であれば手に取るハードルが下がると考えられる。原発事故以来福島県産の様々な農作物において産出額が下落する中、花卉だけは2012年には原発事故以前の水準を超える増加[2]が見られたことから同じ効果がシルクでも期待できる。
・餌の桑も蚕種もすべて福島産で作ることで、伝統に基づいて新しく「福島にしか出せない」魅力を作り上げられる可能性を持っている。

上記の強みに基づき、福島のシルクを復興のための地域資源として活用すべく、日本各地の養蚕に力を入れる地域を参考にして福島県での応用の仕方を検討した。

3．各地における蚕糸業への取り組み事例 —愛媛県西予市野村町

伊予生糸の生産地である愛媛県西予市野村町では繭の生産だけではなく、蚕糸業の普及や広報にも力を入れている。ここでは二つの特色ある取り組みについて紹介する。

・地域おこし協力隊

養蚕や機織りの担い手となる人材を募集、現在1名が協力隊として活動している。

・養蚕インターン

野村シルク博物館で今年初めて開催され、大阪、フランスから女性2名が参加し、地元養蚕農家の指導の下、3齢から上蔟までの一連の作業を体験した。

西予市野村ではこのような新しい取り組みを積極的に行っていることに加えて、現役の市の職員がシルク博物館の事業にも深く関わっていること、マスコミを積極的に活用した情報発信を行っていることも野村の強みであると考えている。もちろん、同じことをすれば福島県でも必ず上手くいくというわけではないが、福島県での蚕糸業再興を考えるにあたって重要なヒントになると感じている。

4．今後の展望

引き続き日本各地の蚕糸関係の情報収集を行い、更には蚕糸に限らず漆や和紙といった、他の伝統産業の取り組みも調査し、「その土地に根付く伝統をいかに地域資源として活用できるか」を検討していきたいと考えている。

5．参考文献

1）令和４年度 福島県の原子力災害による避難指示区域等の住民意向調査 全体報告書（復興庁）
2）「【豆知識】福島県の農業産出額の推移（作目別）」https://food-mileage.jp/2018/08/05/mame-148/ フードマイレージ資料室（最終閲覧日：2023/11/14）

天蚕の繰糸の問題点と真綿紬糸の可能性

絹のより下村ねん糸　下村　輝

奄美での学会の私の講演会のテーマは「天蚕の繰糸の問題点と真綿紬糸の可能性」でした。私は1988年よりすでに30年以上、天蚕糸に関わっており、1991年には月刊誌「染織α」に「私の天蚕誌」という事で全国各地の天蚕の生産地の状況を報告しております。約30年前の生産量や取引量は、今では考えられない10 kg以上の単位でした。生糸価格の相場は現在とほぼ同じ、1 kgが70万～80万円と変わりません。30年間、学会でもいろいろな繭生産や糸繰糸の方法論が提案され、各県で試作織物の実験もなされましたが、ほぼ日の目を見て継続されている生産地は穂高町以外、ほぼ0ではないでしょうか。取り引きさせていただいた最初の鳥取をはじめとして、千葉、岩手、最後の神奈川も今は0です。その後、名乗りを上げられた生産地は数ヶ所ありますが、その生産量はほぼ当時の1/10以下だと思います。その中の1箇所である福島県りょうぜん天蚕の会の皆様と会報NO.88で「天蚕復興を願って」と天蚕真綿紬糸作りの交流を始めました。また、奄美大島のみなみ紬の南修郎様とも、以前に奄美の天蚕の話もしており、圧力鍋による繭のずり出し方法や、今回は真綿紬糸を紡ぐ電動フライヤーの交換による機械提供もいたしました。

さて、講演では天蚕、柞蚕、ムガ蚕の繰糸方法の違いを映像でご覧いただき、なぜ天蚕だけが30年前と同様にあまりにも効率が悪く、更に繭が一粒、100円、200円と、化粧品や医薬品の世界なら理解できますが、染織品の原料の糸の繭代金が1 kgの糸で4000粒弱、100円なら、それだけで40万円弱、プラス困難な繰糸代金で70万～80万円という超高価格になるのでしょうが、結果、高価格過ぎて、織元が試作もできず、買えない糸価のままの現状では需要は拡大せず、むしろ30年間生産量と生産地の減少です。ちなみにゴールデンムガと言われるインドのムガ蚕生糸は以前の価格の2～3倍で、1 kg 6万円です。これでも天蚕糸の1/10以下の価格です。中国の柞蚕糸は現在の為替1ドル150円でも1万5000円にはならない糸価です。

天蚕は話題性もあり、地域おこしになり、それで成功して継続できているのが穂高町です。以前のように繭と糸までだけではこの30年です。さらに織物までを考えての繭や糸の生産でなくては、天蚕はダイヤモンドの様に輝かないと思います。

※P. 10, 11　野蚕学会の「野蚕 No. 93 2023. 11」から転写。「福島県の蚕糸業再興に向けて」と「天蚕の繰糸の問題点と真綿紬糸の可能性」の寄稿があったので紹介します。
添付に当たっては、切り貼り、拡大、縮小して掲載しております。ご了承ください。

トピックス

読者が選ぶ県内十大ニュース

1. 第１原発 処理水海洋放出開始
2. 古関裕而が野球殿堂入り
3. 若隆景、若元春 兄弟同時三役
4. 浜通り豪雨、1700 棟超被害
5. 新型コロナ５類移行
6. 梁川で 40 度、観測史上最高
7. 南相馬強盗「闇バイト」９人逮捕
8. 県産酒 10 回連続日本一ならず
9. いわきＦＣ 18 位でＪ２残留
10. 車同士衝突し親子４人死亡

⓫イトーヨーカドー福島、郡山店閉店へ（９月15日ほか）
⓬県職員、逮捕者相次ぐ（１月24日ほか）
⓭福島国際研究教育機構（エフレイ）開所（４月２日）
⓮復興拠点、帰還伴う避難解除完了（５月２日ほか）
⓯県議選、自民単独過半数届かず（11月14日）
⓰ライオンに襲われ飼育員死亡（９月29日）
⓱相馬野馬追　５月開催決定（11月４日ほか）
⓲福島の荒川　水質13年連続日本一（７月７日）
⓳東日本大震災から12年（３月12日）
⓴１等米75%、高温障害顕著に（10月17日ほか）

令和5年12月15日　福島民友

処理水放出 始まる
初回は17日間で

令和5年8月25日　福島民友

若元春 新関脇
兄弟 史上4組目
若隆景は小結

令和5年5月2日　福島民友

梁川40度 県内過去最高
福島、石川、郡山も観測史上1位

令和5年8月6日　福島民友

侍、世界一
米国破り3度目

令和5年3月23日　福島民友

ヨーカドー福島店も閉店
来春にも県内から完全撤退

令和5年9月15日　福島民友

いわき床上浸水1000棟超
浜通り豪雨、越水相次ぐ
高齢男性 側溝で死亡

令和5年9月10日　福島民友

県内65歳以上33・3%
80歳以上、10人に1人
健康寿命は上昇

令和5年9月18日　福島民友

若隆景、若元春 兄弟同時三役

令和5年12月15日　福島民友

手紙は84円→110円
はがき63円→85円
郵便物減少、来秋にも
3割超値上げへ

令和5年12月19日　福島民友

阪神18年ぶり優勝
守り勝つ野球で独

令和5年9月15日　福島民友

安倍派・二階派を捜索
パー券収入不記載疑い
東京地検、議員関与解明へ

令和5年12月20日　福島民友

日航機、羽田で炎上
海保機と衝突、5人死亡

令和6年1月2日　福島民友(3日)

能登震度7、死者55人
倒壊、火災5万7000
大津波警報 輪島

令和6年1月1日　福島民友(3日)